

篠栗町人口ビジョン

2060年まで

篠栗町まち・ひと・しごと創生 総合戦略

2015年度～2019年度

概要版



人口ビジョン・総合戦略とは・・・

篠栗町の目標人口を定め、実現するための戦略を提示するものです

人口ビジョンは、篠栗町の今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもので、総合戦略は、今後本町が直面する人口減少に対応するため、まち・ひと・しごと創生の方針を踏まえた、新たなまちづくりに踏み出していくための戦略です。



平成27年12月

篠栗町

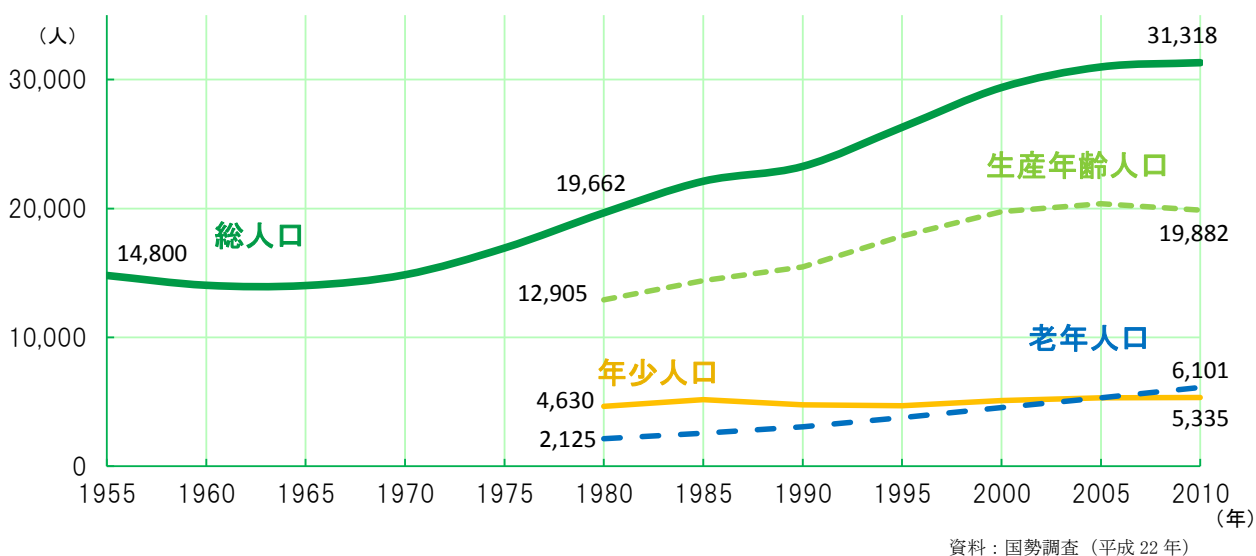
1. 人口の現状は？

2010年に実施した国勢調査において、篠栗町の総人口は31,318人となっており、近年まで続いていた増加傾向はみられなくなっています。

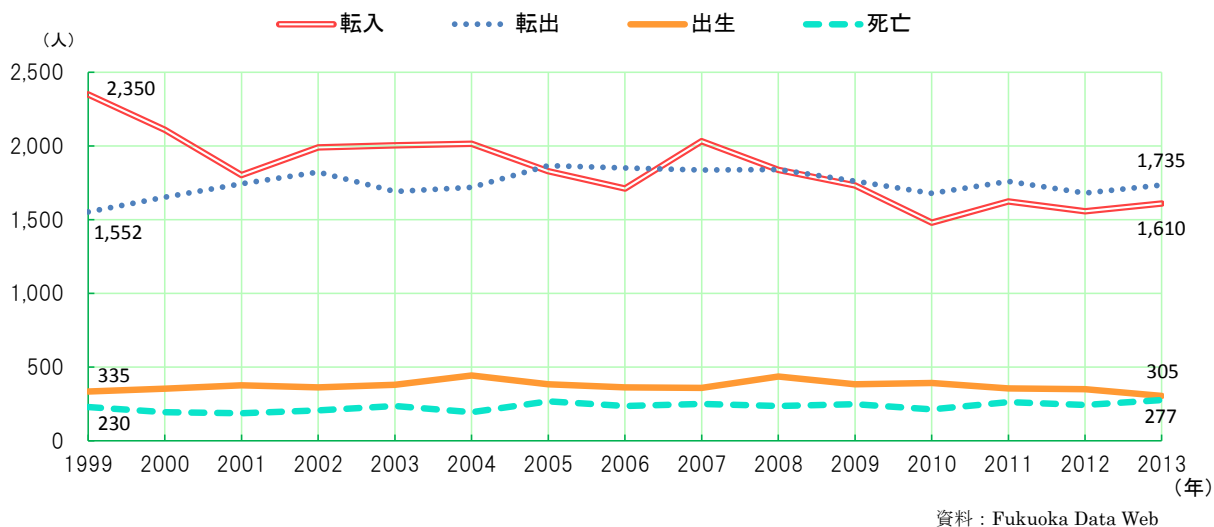
自然動態（出生数、死亡数）：出生数が死亡数より多い状態が続いているため、自然増となっていますが、少子高齢化のため、出生数は減少傾向で、死亡数が増加傾向となっているため、増加幅は縮小傾向にあります。

社会動態（転入数、転出数）：2004年までは転入数が転出数を上回っていましたが、以降は転出数が転入数を上回ることが多く、社会減となっています。

■ 総人口の推移



■ 自然動態（出生数、死亡数）社会動態（転入数、転出数）



2. 人口が減少した場合の影響は？

今後も現在の少子高齢化の状況が続き、本格的な人口減少社会となった場合、2040年には高齢化率32.8%となり、およそ3人に1人が高齢者となるなど、さまざまな分野における影響が考えられます。

■人口減少の影響例

- +スーパーなど生活用品を取り扱う店舗の撤退（日常の買い物が困難な住民が増加）
- +公共交通機関沿線住民の減少に伴う需要の減少による運賃の値上げや減便、廃線
- +入園児童数の減少に伴う子ども・子育て関連施設の経営環境の悪化による施設の縮小
- +高齢者割合の増加に伴う1人当たりの医療費の上昇
- +生産年齢人口の減少による各分野での労働力不足

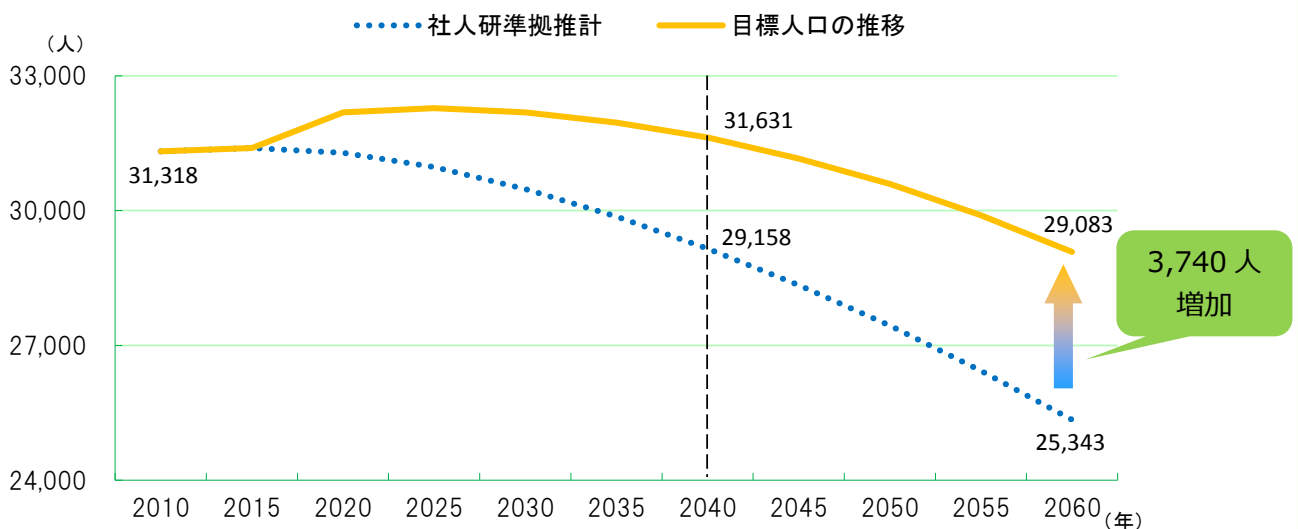
3. 将来人口の展望

国の研究機関（国立社会保障・人口問題研究所 社人研）の仮定に基づいた場合、本町の人口は2040年に29,158人、2060年には25,343人になると推計されます。そこで、今後の人口減少を克服するため、福岡市をはじめとした周辺自治体への人口流出の抑制や妊娠・出産・子育て施策の充実による出生率の向上を図り、2060年に人口29,000人の維持をめざします。

■将来人口の展望

2060年に29,000人をめざしています

■総人口の推計結果



4. 総合戦略で取り組む内容

4つの基本目標ごとに取り組みを推進します。

戦略の推進にあたっては、一部の人によるものではなく、全町的な取り組みが必要です。

住民

サービスの受け手としてだけでなく、地域活動や公益的活動に積極的に関わります

地域・団体

新たな公共の担い手として、それぞれ地域課題に対応した取り組みを推進します

企業

地域の産業・経済の活性化に貢献するとともに、雇用の創出、労働環境の充実に図ります

行政

住民、地域・団体、企業を結ぶネットワークづくりと官民の協働の推進を図ります

基本目標1 安定した雇用を創出する

目標
(2019年度)

新規雇用(生産年齢15~64歳)の確保 300人

(1) 地域における雇用の創出

① 篠栗北地区産業団地開発事業 取り組み主体 行政、企業

本町における新たな雇用機会を創出し、三大都市圏やその他の地域からの移住や定住の促進に寄与することをめざした産業団地を開発し、あわせてバイオマス産業都市認定に向けた取り組みを進め、一貫した循環型エネルギーシステムの構築による雇用の創出を図ります。

目標値(KPI) 篠栗北地区に産業団地を形成し、企業誘致による新規雇用 250人

② 篠栗西地区沿道サービス誘致促進 取り組み主体 行政、企業

篠栗西地区の国道201号に沿道サービスを誘致し、雇用の促進を図ると共に周辺地域の利便性を高めます。

目標値(KPI) 沿道サービス誘致による新規雇用 50人



③ 中山間地域への企業誘致 取り組み主体 行政、企業、地域・団体

中山間地域の活性化を図るため、地域特性に適した企業(IT・設計・研究等)の誘致を行います。

目標値(KPI) 中山間地域への誘致企業数2社

基本目標2 まちに人を呼び込む

目標
(2019年度) 新規観光客数 6,000 人増

(1)新しい観光産業の創出

① 観光農園事業の推進 取り組み主体 行政、企業、地域・団体

農業6次産業化への取り組みとして町有地を活用した生産性が高い農産物による観光農園事業に取り組みます。また、直売所を設け、地域資源を活かした特産物の商品開発並びに販売ができる体制を構築し観光客増加につなげます。



目標値(KPI) 観光農園事業による来園者数 5,000 人

② 森林セラピー基地の活用 取り組み主体 行政、企業、地域・団体

平成22年9月のオープン以来、森の案内人の会のイベントが毎月開催されるなど、森林セラピー体験者がリピーターも含め年間600人を超えています。地域資源である森林セラピー基地に篠栗四国八十八ヶ所など魅力ある体験メニューを組み合わせることで、企業研修等の場としての活用を図り、若年層を含めた更なる来訪者の増加を図ります。

目標値(KPI) 森林セラピーを活用した企業研修等の利用企業数 10社

③ デトックスホテル(断食)の推奨 取り組み主体 企業、地域・団体

以前は70軒ほどあった旅館が現在14軒となっています。その中で、休業中の旅館の活用の一つとして、体内の毒素や老廃物を身体から出し、必要な栄養素を摂り入れやすくするデトックス(断食)の手法を取り入れた新たな観光モデルを推奨します。

目標値(KPI) 休業旅館のデトックスホテルの活用 1か所

(2)移住・定住の促進

① 篠栗町のPR強化 取り組み主体 行政

本町への移住の検討や定住並びに企業誘致を促すため、町ホームページのアクセス利便性や情報基盤の強化を図り、篠栗町の更なる魅力発信に努めます。

目標値(KPI) 移住・定住につなげる魅力あるホームページにし、アクセス数20万回増

② JR篠栗駅東側自由通路設置事業 取り組み主体 行政

JR篠栗駅東側に自由通路の設置と駅北側に交通広場を整備することで駅周辺の混雑解消など利便性向上や篠栗北地区の活性化を図り、新たな人口流入につなげます。

目標値(KPI) JR篠栗駅の1日当たりの利用者数延べ5,500人



基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

目標
(2019年度) 子育て世帯の増加数 300 戸増

(1) 結婚への支援

① 出会いの場の創出 取り組み主体 行政、地域・団体、町民

出会いを増やす取り組みの一環として九州・沖縄森林セラピー基地ネットワーク会議森林セラピー推進事業である「森コンde森林セラピー」を九州圏域で実施し、出会いの場をつくります。

目標値(KPI) 各種イベントの参加者数 100 人



(2) 出産・子育て支援の充実

① 子育て世代の定住の促進 取り組み主体 行政、企業

子育て世代や生産年齢世代の定住や、東京圏をはじめ福岡都市圏からの移住を図るためにコミュニティを重視した魅力ある住環境開発を促進します。

目標値(KPI) コミュニティを重視した魅力ある新規住宅 350 戸

② 子育て環境の充実

キッズコーナーの設置 取り組み主体 行政、企業、地域・団体、町民

町内店舗や公共施設においてキッズコーナーの設置を推進し、子育て世代が利用しやすい環境づくりをめざします。また、福岡県が実施している「子育て応援の店」の登録店舗増に向けて活動を推進します。

目標値(KPI) キッズコーナーの設置 公共施設2か所増、町内店舗 11ヶ所増

子育て包括支援センターの設置 取り組み主体 行政

現在実施している産後支援ヘルパー事業について産前まで対象を拡大し、妊娠期から中学生までの一貫した支援を実施します。

目標値(KPI) 子育て包括支援センター1か所設置 利用者数 50 人



保育施設等(保育所・認定こども園等)供給量の拡充 取り組み主体 行政、企業

保育施設等(保育所・認定こども園等)における受け入れ態勢の整備並びに可能供給量の把握に努めることで定員数の増加に努めます。

目標値(KPI) 保育施設等(保育所・認定こども園等)供給量 677 人から 750 人

放課後児童健全育成推進事業の供給量の拡充 取り組み主体 行政、企業

たけのこ・すぎのこ児童館内に学童保育室の増設と19時までの延長保育を実施します。

目標値(KPI) 放課後児童健全育成推進事業(学童保育) 20 人の定員増

ファミリーサポートセンターの設置 取り組み主体 行政、企業

地域において育児や介護の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織を広域で立ち上げ、地域の子育てと仕事と介護の両立を支援します。

目標値(KPI) ファミリーサポートセンター設置数1か所、会員数 100 人

ふくおか子育て支援マイスター制度 取り組み主体 行政、町民

福岡県の「ふくおか子育て支援マイスター制度」を活用し、子育て支援に意欲がある60歳以上を対象に、病気への対応や事故防止、相談対応のノウハウなど子育て支援者として必要な知識を習得するための研修を実施し、こども見守りボランティア体制の充実を図ります。

目標値(KPI) ふくおか子育て支援マイスター制度登録者数 8 人増

子育て環境整備のための現状分析支援 取り組み主体 行政、町民

充実した子育て環境整備を図るため、行政情報である住民基本台帳、福祉、保育、医療保健、税情報、財務会計等を一元化し、施策立案に利活用します。

目標値(KPI) 子育て世帯 50 戸増

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

目標
(2019 年度) 自治会加入の促進 加入率 75%

(1)生涯安心して暮らせるまちづくり

① 介護に頼らない元気な高齢者の増加 取り組み主体 行政、企業、地域・団体、町民

本町の高齢化率は毎年1%ずつ上昇しています。現在、介護保険における認定者出現率は14.2%と福岡県下最低ではありますが今後は増加傾向になるものと考えられます。そこで地域介護予防活動支援事業の更なる充実と自治会からの声かけなどコミュニティを充実させ介護に頼らない元気な高齢者を増加させます。

目標値(KPI) 認定者出現率 14%台以内



(2)地域で支え合うまちづくり

① 地域コミュニティの維持・強化 取り組み主体 行政、地域・団体、町民

各地域の特色を活かし、コミュニティの相互交流を深めながら、また、コミュニティ活動しやすいよう環境整備を行い、よりよいコミュニティづくりを進めます。また、コーディネーター等の地域の人材の発掘、育成を図ります。

目標値(KPI) メニュー化も取り入れた協働のまちづくり補助金事業
年間申請数 20 件



5. 総合戦略全体図

| 中長期展望 (2060年) | 将来の まちの姿 | 篠栗町の 理念 | 篠栗町総合戦略の重点 | 方向性 | 実施主体 | 主な施策および重要業績評価指標(KPI) | |
|---|--|--|---|--------------------|----------------------|---|--|
| 人口減少問題の克服◎2060年29,000人(減少率1割弱) 現状のままでの見通し25,343人 | 「住んでわかる 子育て 暮らしに便利なまち」 「このふるさとをめぐり、子育てしやすいまち」「いつまでも住み続けたいまち」をかなえる | ●いきいきと活力に満ちたまち ●安心・安全に支えられたまち ●いつまでも住みたい いつまでも訪ねたいまち | ① 安定した雇用を創出する | 雇用の創出 | 民間企業 行政 | 篠栗北地区に産業団地を形成し、企業誘致による雇用の促進を図る。 (新規 250 人の雇用確保) | |
| | | | 雇用者増加数 300 人増 | | 民間企業 行政 | 篠栗西地区の国道 201 号に沿道サービスを誘致し、雇用の促進を図る。 (新規 50 人の雇用確保) | |
| | | | | | 民間企業 中山間地域 行政 | 中山間地域に環境にやさしい企業誘致を図る。(誘致企業2社) | |
| | | | ② まちに人を呼びこむ | 新しい 観光産業の 創出 | 行政 民間企業 観光協会 | 農業6次産業化への取り組みとして町有地を活用した生産性が高い農産物による観光農園事業に取り組む。 (来園者延べ人数 5,000 人) | |
| | | | 新たな観光産業の開発 による来町者の増 6,000 人増 | | 行政 観光協会 民間企業 | 森林セラピーを活用した企業研修等の誘致 (利用企業数 10 社) | |
| | | | | | 民間企業 観光協会 | 休業旅館の新たな活用(デトックスホテル等)(休業旅館の活用数1か所) | |
| | | | | | 篠栗町の PR強化 | 行政 | 移住検討や定住並びに企業誘致を促すための町ホームページの情報基盤の強化 (アクセス数 20 万回の増) |
| | | | | | 生活利便性の 向上 | 行政 | JR 篠栗駅東側に自由通路の設置と駅北側に交通広場を整備 (1 日利用者数延べ 5,500 人) |
| | | | ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 出合いの場の創出 | 行政 観光協会 町民 | 各種イベントによる出合いの場の創出 (参加者数 100 人) | |
| | | | 子育て世代の定住促進 | | 行政 民間企業 | コミュニティを重視した魅力ある住環境開発の促進(新規住宅開発 350 戸) | |
| | | | 子育て世帯の移住並びに定住化 子育て世帯 300 世帯の増加 | | 商工会 民間企業 町民、行政 | 店舗や公共施設におけるキッズコーナー設置の推進(設置店舗 11 件増) | |
| | | | | | 行政 | 子育て包括支援センターの設置 (1か所設置 利用者数 50 人) | |
| | | | | | 行政 民間企業 | 保育施設等(保育所、認定こども園等)の供給量の拡充(677 人から 750 人へ拡充) | |
| | | | | | 行政 民間企業 | 放課後児童健全育成推進事業(学童保育)における供給量の拡充(20 人の定員増) | |
| | | | | | 行政 民間企業 | ファミリーサポートセンターの設置 (設置数1か所 会員数 100 人) | |
| | | | | | 行政 町民 | ふくおか子育て支援マイスター制度活用によるこども見守りボランティア体制の充実 (登録者数 8 名増) | |
| | 行政 町民 | 子育て環境整備のための現状分析支援 (子育て世帯 50 戸増) | | | | | |
| ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する | 介護に頼らない元気な高齢者の増加 | 町民 民間企業 ボランティア 団体、行政 | 地域介護予防活動支援事業メニューの更なる充実(認定者出現率 14%台以内) | | | | |
| 自治会加入の促進 自治会加入率 75%の維持 | 地域コミュニティの維持・強化 | 町民 各種団体 行政 | 篠栗町協働のまちづくり推進事業補助金制度のメニュー化による活用促進 (申し込み件数 20 件増) | | | | |